



みなさま

特別企画

大ヒットアニメ映画「鬼滅の刃」にみる人間の本質

小松昭夫が語る「鬼滅の刃」とは。

人間は本来、自分のためには上昇志向を持たない生き物である。仲間、家族を守るためだけに自分のチカラを鍛えて使う。その時のみチカラを強くすることには関心がある。現代社会には常に利己性と利他性という根源的な対立があり、文明の進化と共に混迷を極めてきている。この危機感を直感して出来上がった映画であり人類に警告を発した。日本国内だけではなく、台湾など海外でも大ヒットをし始めた画期的な映画となった。

この映画は今の社会を「人が鬼になり、鬼に支配されていく社会」と考え、それと闘う主人公の壮烈なバトルが描き出されている。「お前も鬼になれ。そうすればお前らの弱さ、悩みがすべて解決できる。こっちへこい、こっちへこいと誘われている。そうすればお前も勝ち組になれる。もっと幸せになれる」と、鬼への誘惑が今と重なっていく。この映画の主人公は決して強くない姿で描かれている。よくあるアニメの絶対的なヒーローではない。弱いのである。鬼の圧倒的なチカラ、それは今の社会そのものあり、鬼は人より強く、大多数になっていく姿は現代社会そのものである。鬼には勝てないかもしれない。でも鬼からどんな誘惑があろうとも自分は「鬼には絶対にならない」という決意が心に残る。「俺は鬼にはならない。お前とは価値観が違うのだ！」叫ぶ姿が胸を打つ。そして印象的シーンとして、ある登場人物の母との回想シーンがある。母が「あなたは健康で強い男として生まれてきました。その強さを誰のために使いますか。その強さを弱い人を助けるために使いなさい。決して自分のために使う生き方をしてはならない」と語るシーンが象徴的であった。鬼の血が人間の中に入っていくとだんだん鬼になっていく。鬼は首をとられるか、直射日光に当たると死んでいきます。まさに鬼が大多数になっていく社会を描き出していた。鬼とは「自己本位、上昇志向、利己的な思想」の象徴だと語り続ける。

これはギリシャ時代の世界観にもさかのぼるといわれている。人類が集団をつくり暮らし始める初期定住社会から存在する永遠のテーマである。ギリシャ初期の哲学、倫理ともいえる考えを前面に押し出している根源的なテーマである。

条件プログラムという考えは「もし、神を信じれば救われる。勉強をがんばればいい大学に入学できる。そうすればいい会社に入れ、高額所得を得られる、だから頑張らないといけないう」に象徴される思考が支配していく。この映画はこれら「打算と計算」を完全否定する生き方を主人公に求める。

私はこの映画を観終わった後に「人間の本来あるべき人生とは？」という原理・原則を考えた。この完璧に出来上がったように思える絶望的な現代社会を生きる私たちに、激しく訴え迫ってきた。**鬼を殺すのではなく、鬼になった背景、経緯に思いを巡らせ共に生きること、両方が進化する過程が社会の望ましい姿**ではと思い浮かんだ。「本当に今のままの生き方でいいとお前は思っているのか。今のままの生き方を、つまりどんどん鬼になっていく自分自身を認めるのか！」と、この映画は私に迫ってきた。

映画を見終わった多くの観客は涙を流し感動に包まれた。

そして「今の生き方でいいのか？」と、ひとりひとりに問う映画であった。

関連動画（9分42秒）

朝日ニュースター よみがえれニッポン対談番組
ニッポン再生・逆転の発想「教育について考える」



佐藤一斎の言葉

「少くして学べば、則ち壮にして為すことあり

壮にして学べば、則ち老いて衰えず

老いて学べば、則ち死して朽ちず」

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

対立から共生の文化へ

長い歴史問題から生まれた国家間対立、近年では深刻な米中対立、核・スマートフォンの爆発的普及、世界を覆うコロナ禍、とめどもない通貨政策などが重なり、朝鮮半島と日本列島から究極の危機が始まりかねません。

朝鮮半島の対岸、中海・宍道湖圏域で活動が続けてきた人間自然科学研究所は、「天の時・地の利・人の和」を得て、「対立から共生の文化へ」転換する「平和・環境・健康」「宗教・政治・経済」「感激・感動・覚醒」を深く考察、議論、活動を通じて「天命」へと繋がりました。

朝鮮半島対岸に位置する中海・宍道湖圏域は、核大国の中国・ロシア・アメリカの対立と日本・韓国・北朝鮮の対立に国内の地域間・世代間・貧富の差の拡大・国家の統治不全も重なり、社会不安が急速に拡大しています。

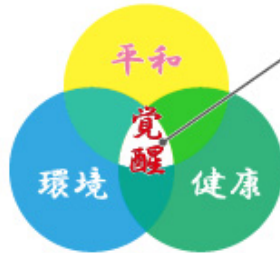
このような状況下に、島根原発三号炉の完成を控えています。
政略(原則) の上位概念の天略(原理) から、**真の地方創生**のストーリーを描くことにより、これに関わる方々の才能が次々と開花し、**真の健康寿命**を賜う流れが始まると信じています。

平和の定義＝戦争の無い状態は言うまでもなく、才能の開花を妨げる社会の文化的・構造的要因も無い状態

平和は創るものです。平和は、あたりまえのようにこの世に存在するものではありません。人間という生き物の特性を知り、その危うさを自覚するところから学ばなければなりません。

環境の定義＝社会環境（世界人的環境・国内人的環境）と、地球の歴史と、人類の長い営みから生まれる自然環境。

私達は地球をひとつの生命系として連鎖して存在しています。自然破壊、経済優先、効率主義の蔓延による危機が迫り、このままでは人類の悲劇は避けて通れないと思われまふ。「豊かさの指標を変える」新しい哲学が必要です。そしてその哲学から生まれる新しい事業こそ私達が担うべき事業です。



「永遠の命を賜る」

健康の定義＝肉体及び精神（心と脳）が時間（神）の経過と共に、次々と才能が開花する状態。人類は自然界で関係性が無いと生きていけない生命体。価値観が同じで得意領域が違う3人が語り合う状況が必要とする。三人寄れば文殊の知恵。

人は何のために生きるのか。私は「楽しく愉快に天寿を全うしたい」と考えています。そのためには自分の才能が開花して光り輝く状態であり続ける生き方を実践し続けるチカラが大切だと考えます。健康寿命を長くする秘訣はまさに自分の中に眠っている才能を呼び起こし鮮やかに開花させることにあると考えています。

編集後記

今週のメルマガは特別企画です。今コロナ禍の中で空前の大ヒットを更新しているアニメ映画「鬼滅の刃」を取り上げました。映画史上の歴史をすべて塗り替えてしまうほどの勢いです。この映画とは何か？この映画が語るものは何かを哲学してみようとなりました。先日、小松社長以下5名のみなさんが映画館に行きました。

多くの若手社員の中でも話題になっていたので小松社長の好奇心に火が付いたのです。私は先立って観ていたので、しばし映画論で盛り上がりました。「よし、すぐ観に行こう」と決断される社長の行動力には感動すら覚えました。本文でお伝えしているようにこの映画は「人間の本質」と「病んでいる世相」を見事に描いていました。

鬼になっていく社会とは小松社長が常日頃からお話されている「人は何のために生きるのか？」そして「これからどう生きるのか」というテーマを見事に描いていたのです。誰もが平和で環境にやさしく健康に暮らすには、歴史を振り返り、共感納得でき、**新たな一歩が踏み出せる無限列車を必要とする時代が到来、その出発地が特別な連結汽水湖、中海穴道湖圏域**ではと、この映画を観て夢が芽生えました。

編集人 長谷川泰二



小松電機産業株式会社



人間自然科学研究所